

●アンドレス・リネツキー タンゴ 楽団 (Orquesta de Tango Andres Linetzky)



●アンドレス・リネツキー (Music director, Piano, Arrangement)

1974年、アベジャネーダ生まれ。アベジャネーダ音楽学院にてクラシック、タンゴ、ジャズ、作曲法を学ぶ。巨匠オラシオ・サルガン、カルロス・ガルシアらに師事。ガルシア＝ガレーロ指揮の名門、ブエノスアイレス市立タンゴ・オーケストラのピアニストとして抜擢され注目を集める。独自のタンゴ奏法、解釈、優れたセンスと高い技術が高く評価されている、タンゴ界の未来を担うホープの一人。1999年に“バーレ・タンゴ (Vale Tango)” を結成してからは海外での活動にも力を入れており、現在まですでに9枚のアルバムを発表。また、人気タンゴ男性歌手アリエル・アルディトの楽団リーダーでもあり、バンドリーダー、コンポーザー、アレンジャーとして確固たる地位と人気を築いている。今回で4度目の来日となる大の親日家。

●パブロ・ハウレーナ (Bandoneon)

コルドバ州出身。10代後半からバンドネオンを学び始め、コルドバ国立大学音楽科の作曲コースで学ぶ。在学中から仲間とともに“トリオMJC”を結成し、2013年のコルドバ州コスキン・フェスでは見事最優秀賞を獲得。2006年首都に進出し、エミリオ・バルカルセ指揮“タンゴ学院オーケストラ”に入団、他にもネストル・マルコーニ等の指導を得る。現在、“ラ・ティピカ・シリアコ楽団”と、コルドバ市タンゴ・オーケストラの音楽監督としても活躍、また2010年末からは、コロンプアのメデジン音楽院タンゴ楽団の芸術監督として楽団を指導（顧問＝ラウル・ガレーロ）、国内公演の他ブエノスアイレスのタンゴ・フェスティバルに出演するなど多忙を極めている。

●ウンベルト・リドルフィ (Violin)

欧米欧米各国でバイオリンの修練に励んだ後、1997年、大ヒット・タンゴ・スペクトル“フォーエバータンゴ”のトッププレイヤーに招かれ世界を巡演、その名を世界に知らしめた。リネツキー率いる“バーレタンゴ”の元第1バイオリン奏者でもあり、現在は、コロンプ劇場フィルハーモニーに所属しながらタンゴの演奏にも励んでいる。名実ともに、現在のタンゴシーンで誰もが認めるトッププレイヤーの一人。葉加瀬太郎のアルバム「タンゴ・ノスタルジア」の収録、及びそのコンサートツアーでも過去に来日している。

●会田桃子 (Violin)

3歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園大学音楽学部・在学中よりアルゼンチンタンゴに興味を持ち、“小松亮太&ザ・タンギスツ”に参加。その後も本場ブエノスアイレスを度々訪れ研鑽を積んだ。2000年より、“クアトロシエントス”を立ち上げ、ピアソラ以降の現代タンゴの形を模索するべく、作編曲に強く力を注いでいる。2009年、ピアノの青木菜穂子と共に“オルケスタ・アウロラ”を結成。リーダー2人の作編曲を巧みな6人のアンサンブルで聞かせるなど、精力的な活動を続けている。

●鈴木崇朗 (Bandoneon)

1986年生まれ。2001年よりバンドネオンを小松亮太に師事。2005年には“小松亮太&オルケスタ・ティピカ”のメンバーとして南米ツアーに参加。その後、単身アルゼンチンに留学し、フリオ・パネ、ネストル・マルコーニ、他に師事し研鑽に励む。2009年、“2×4 Tokio”のメンバーとして世界タンゴサミットに参加。2010年には“オルケスタ・アウロラ”のメンバーとしてブエノスアイレスのタンゴ・フェスティバルで演奏。現在、“小松亮太&オルケスタ・ティピカ”、“オルケスタ・アウロラ”等で活動中。

●東谷健司 (Contrabass)

1969年生まれ。あがた森魚のアルバム『バンドネオンの豹 (ジャガー)』に衝撃を受け、1988年よりオルケスタ・デ・タンゴワセダでタンゴの演奏を開始。これまでアルゼンチンの多くのトップアーティストたちと共演。1996年から2002年頃までは、“小松亮太とタンギスツ”に参加。1996年、ピアニスト熊田洋と、“エル・タンゴ・ビーボ”を結成。2008年より、あがた森魚のサポート・ミュージシャンとして活動、同時に2009年からは、“オルケスタ・アウロラ”のメンバーとしても活躍中。